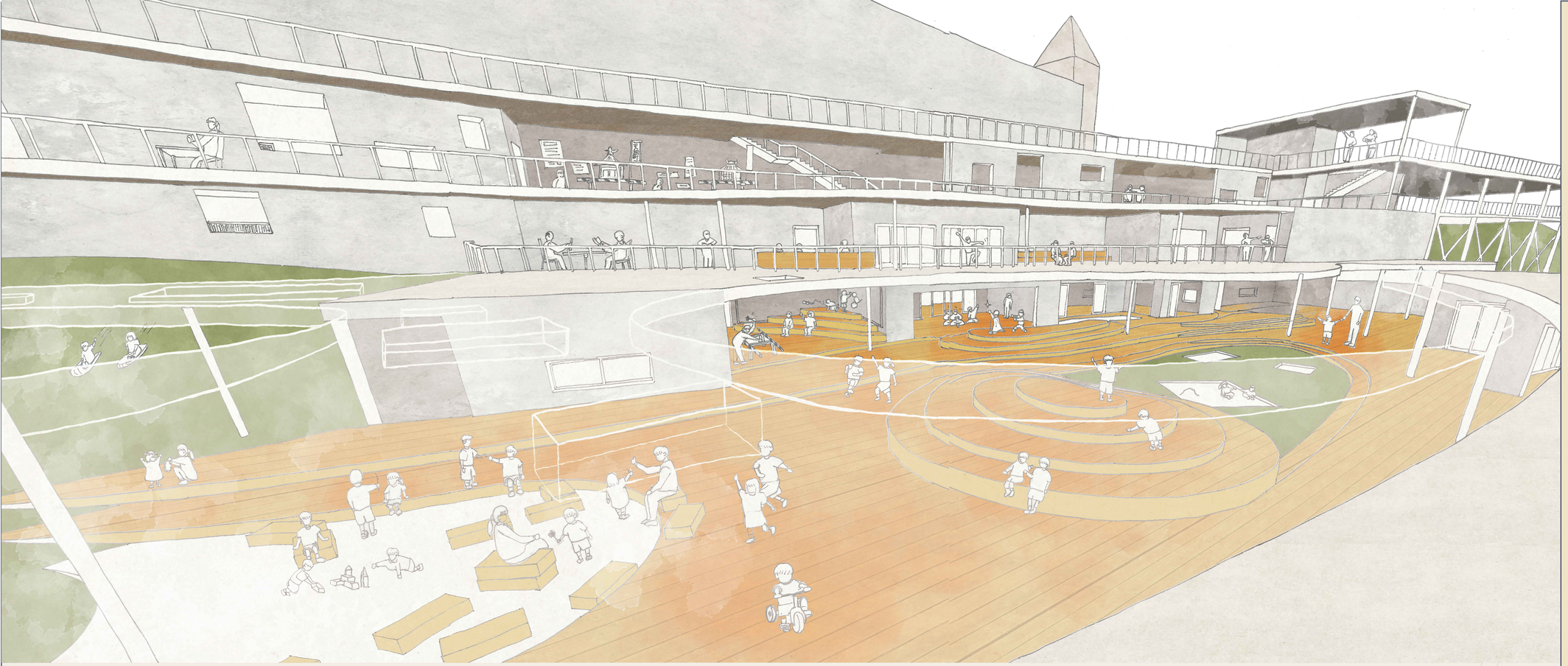


継承のはじまり

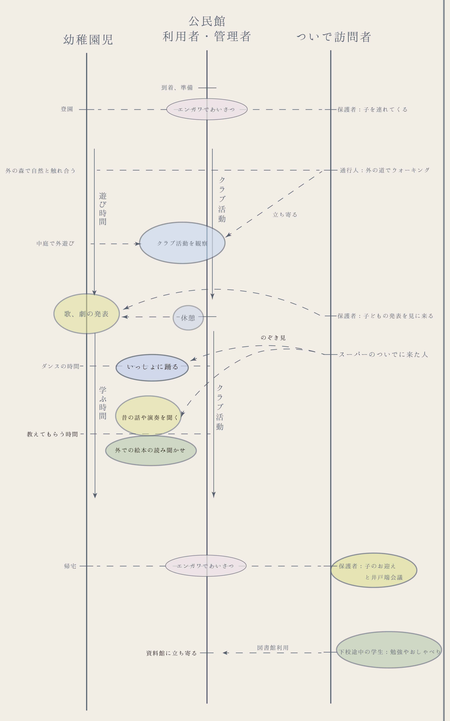
歴史のないまちといわれるこのまちに

「今日の出来事」から「50年前の話」まで、

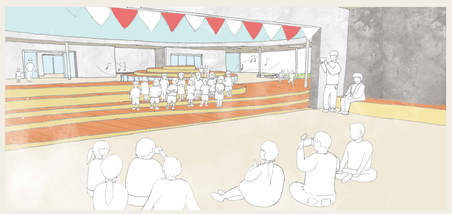
いつでも伝えられる場所を。

ダイアグラム

流線形の板の重なりと矩形の部屋の連続が
様々な空間を生み、
いろんな人同士の思い出や継承が引き起こされる。

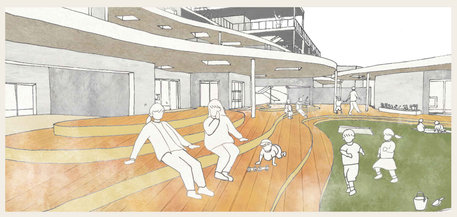


お立ち台ベンチ



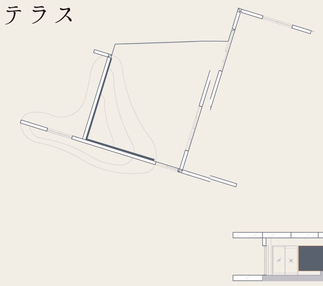
幼稚園の発表会。青空のステージでみんなの前で練習の成果を出し切る。公民館の職員や利用者も一緒に応援。

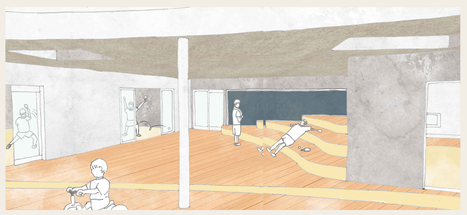
地域の大人たちが得意なことを披露して子どもたちは耳で色んな経験を積んでいく



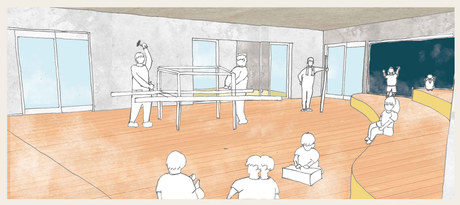
幼稚園が閉まるとき、子どもの家族や地域の散歩する人の憩いの場となる。

創作テラス

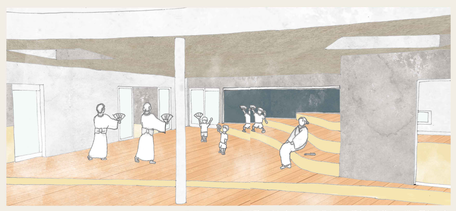




フリースペースでの活動で疲れたら休憩。

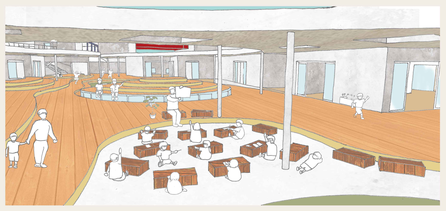


まつりでのお神輿作りは幼稚園園児も参加して観察、後ろの黒板で子供たちはお絵描き。

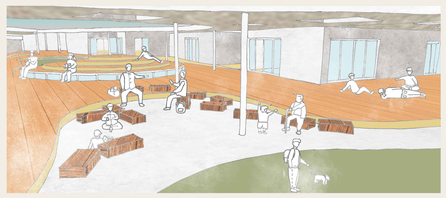


フリースペースで遊んでた人たちが子供たちに誘われて外で一緒に踊りだす。

つみき広場

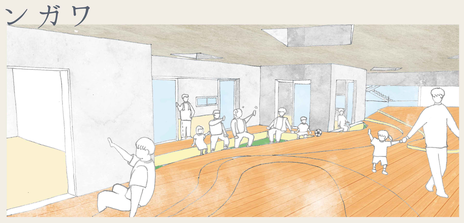


天気のいい日は青空の下でお絵描き。



幼稚園がお休みの時は待ち合わせや帰り道の休憩場所に、色んな人でにぎわう。

エンガワ



幼稚園の送り迎えは公民館側の人たちに手を振ってあいさつ

背景

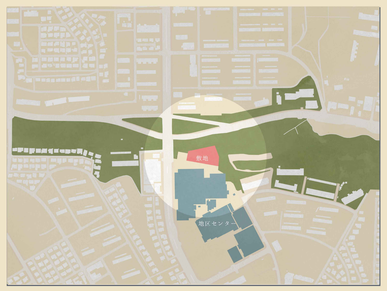
約55年前に大分市北部の臨海工業地帯の大企業のベッドタウンとして丘陵地に誕生した明野団地。この団地はニュータウンながらも職業の縁により独自のコミュニティを大いに発展させてきた。

しかし近年、大規模な社宅の取り壊しや高層分譲マンションの建設ラッシュにより、これまでこの街のコミュニティを支えてきた職業での確固たる縁は崩れ始めている。

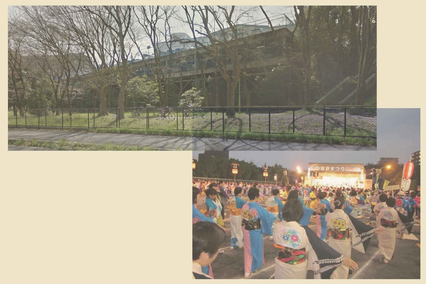
このままではコミュニティは希薄になり、住民の心によりそう”ふるさと”としての姿は薄れていく一方である。
それを防ぐために、この街に住む住民たちがこの町への帰属感を持つきっかけとなるような場所、またこの街の歴史を語り継ぎ、刻み込むための場所が必要である。

そこで、様々な価値観形成の土台となる「幼稚園」と高齢者を主とする多くの地域住民が利用する「資料館としての機能をもつ公民館」の間に起こる新しい縁が結ばれる場所を設計し、大きな目で見ると多世代での交流が促進されるようなニュータウンの「広場」の新しいあり方を設計する。

敷地情報

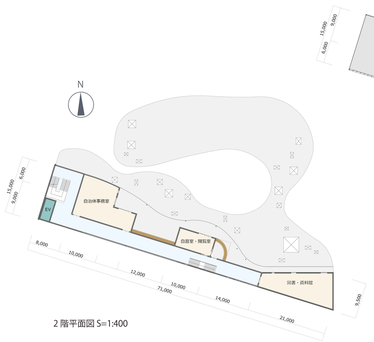


敷地は明野団地の地区センターの古い立体駐車場跡地の一部と、その周辺の低湿地の一部である。駐車場の上は毎年行われる「明野まつり」の主会場であり、まつりの日もそうでない日も多くの住民が訪れる場所である。

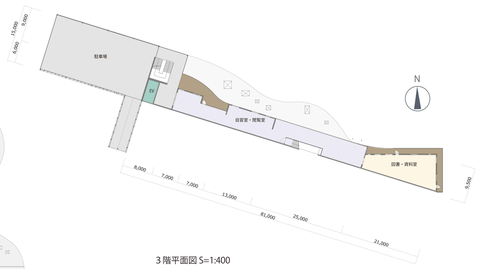


各図面

配置図兼１階平面図 S=1:200



2 階平面図 S=1:400



3 階平面図 S=1:400

断面図 S=1:400